

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 特定非営利活動法人 多言語教育研究所

1 事業の趣旨・目的

- (1) 趣旨： 出稼ぎ外国人の社会的な立場と状況についての理解を深め、多様な日本語学習者のさまざまなレベルに合った教育方法を勘案しながら進める日本語教育の実践を行なう。
- (2) 目的： 学習センター・調べ学習・問題提供型教育法などの考え方を通して、日本語学習者自らが主体となり日本語を学ぶことを理解する。受講者が研修で習得した教育法を地域における日本語ボランティア活動に活用できるよう、支援のネットワーク作りも目指す。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月29日	当法人	谷口すみ子 園田智子 小野田幸夫 村元エリカ 本堂晴生 ミックメーヒル・カイラン 守屋史朗 長谷ルジネッテ	研修の課題	本研修の実効性を高める方策として、内部の実習環境の設置検討、受講しやすいよう全30回を2つに分ける検討、研修終了後の地域社会等での活用について議論・提言があった。今後これらの課題について、本研修の進捗状況の審議とともに議論を深め、研修に反映して行く。
7月24日	当法人	谷口すみ子 園田智子 小野田幸夫 桑原宜徳 本堂晴生 ミックメーヒル	前期講座の成果・反省と後期講座の内容について。	【前期講座】① ゲスト講師の授業は、1回の単発ではなく、導入-実践-振り返りのサイクルが回るように複数回行なうのが良い。

		ル・カイラン		②児童向けの日本語教育手法であるが、成人向けにも応用できる。 【後期講座】 外国人経営者・組織のリーダー向け日本語教室を研修内容の適用の場とする。
9 月 25 日	当法人	谷口すみ子 小野田幸夫 桑原宜徳 本堂晴生 ミックメーヒル・カイラン 守屋史朗	前期講座のアンケート結果、後期講座の課題と対応策	① 前期講座のアンケート結果は概ね良い評価。後期講座のアンケートは無記名にする。 ② 後期講座は課題を絞ることで教育の対象者をはっきりさせ学習の狙いを明確にしている。 実践の時間は、日本語教室の外国人生徒ごとに受講者が組んで、生徒の職場等での現場ニーズ調査を行ない授業計画案を作成する。
11 月 27 日	当法人	谷口すみ子 桑原宜徳 村元エリカ 本堂晴生 ミックメーヒル・カイラン 守屋史朗	後期講座の進捗にともなう課題と対応策	① 後期講座では併設の日本語教室での即適用は有効。但し、生徒は仕事を持っており残業等で来室できない生徒もいる。 ② 日本語能力が初段階の生徒に対しては、ビジュアルなビジネスアイテムを使うことが有効。

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名 外国人レベルさまざま＊上手な教育法

(2) 研修の目標

さまざまなレベルの外国人(児童、成人)に対する、学習者を主体とした日本語教育方法を学習し、地域の日本語教育支援活動に応用できるようにする。

(3) 受講者の総数 19 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 日本国 13 人, ブラジル国 4 人, スペイン 1 人, ボリビア 1 人。)

(4) 開催時間数(回数) 60 時間 (30 回)

(5) 参加対象者の要件

日本語教育ボランティアの経験年数が原則 2 年以上または意欲のある人。

(6) 受講者の募集方法

① チラシの配布… 伊勢崎市地域の日本語ボランティア協会、国際交流協会、教育委員会、大学、日本語ボランティアグループのキーパーソン、外国人コミュニティ関係者等への直接面談による配布・周知依頼及びそれらを通じた関係者への配布。また、教育委員会における伊勢崎市内の公立中小学校の日本語教室関係者の集まりでチラシを配布頂いた。[チラシ添付]

② e-mail、ファックスによる広報… 群馬県地域の多文化共生、国際交流関係 97 団体への送信。

(7) 研修会場

ア 講義 賃借教室

イ 実習 外部語学教室、音響設備会社、教会、食品販売所、賃借教室

(8) 使用した教材・リソース

講師の自作教材

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
5月22日 10:00～ 12:00	イントロダクション及び概要/本講座は日本語学習者を中心とした教育法であること、レベルさまざまによる授業の利点とマイナス面及び全体の講座計画の説明。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	11名
5月29日 10:00～ 12:00	日本人移民者の歴史、学習者の学習背景・目的/南米へ日本人が移民を行なった背景、現地での苦労、そして日本への出稼ぎの経緯を説明し、日本語学習者のレベル及び学習の目的もさまざまであること。	玉村中央小学校日本語教室教員 村元エリカ 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	7名
6月5日 10:00～ 12:00	伊勢崎市における多文化共生の推進状況と課題/群馬県で定住外国人が最多の伊勢崎市における外国人が抱える問題、行政が抱える問題の説明と日本語学習の必要性。	伊勢崎市役所国際課課長 小野田幸夫 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	6名
6月12日 10:00～ 12:00	学習者のニーズとレベルの調べ方/学習者のニーズとは何か、3つのアプローチの比較。	中央大学専任講師 谷口すみ子 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	7名

6 月 19 日 10:00～ 12:00	教育現場のニーズ研究の準備/ニーズに基づくロールプレイの作成と発表。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	7 名
6 月 26 日 10:00～ 12:00	フレイレの問題提供型教育法(1)/フレイレの教育法と概念(意識化など)の紹介。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	8 名
7 月 3 日 10:00～ 12:00	フレイレの問題提供型教育法(2)/フレイレの教育法を基にロールプレイの作成と発表。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	7 名
7 月 10 日 10:00～ 12:00	バイリンガル教育の基礎と教科の指導/構成的グループエンカウンターの手法を用いた集団活動、3つのタスクの学習と予習計画の作成法。	群馬大学講師 園田智子 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	8 名
7 月 17 日 10:00～ 12:00	ラーニングセンターによる体験学習/3つのグループに分かれ、国旗と国名、国別音楽などの学習を体験。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	8 名
7 月 24 日 10:00～ 12:00	大東文化大学院生による模擬授業の結果発表、受講者の教育プロジェクトの結果発表/ギネスの記録を使った比較判断の授業などの結果と検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	7 名

9月21日 19:00～ 21:00	テーマ選びと内容創り、アイスブレイカーの仕方/外国人生徒の履歴と日本語学習の目的の把握。	Jコミュニケーション代表 高橋清乃 大東文化大学教授 ミック マーヒル カイラン	11名
9月28日 19:00～ 21:00	語彙の予備学習、生徒のニーズ・希望に合わせた教え方/日本語を使う場面の設定と授業目標設定。	群馬大学講師 園田智子 大東文化大学教授 ミックマーヒル カイラン	11名
10月5日 19:00～ 21:00	単語の使い方と復習の仕方、漢字を物語で覚える/生徒の仕事に関する漢字を覚えるための物語の作り方と実習、発表。	大東文化大学教授 ミックマーヒル カイラン	10名
10月12日 19:00～ 21:00	学習者中心のクラス設営、ニーズアナリシス、ロールプレイと会話練習の違い/半構造化インタビューによるインタビューシートの作成、現場インタビュー・ニーズリサーチシートの作成方法。	群馬大学講師 園田智子 大東文化大学教授 ミックマーヒル カイラン	8名
10月13日 19:00～ 21:00	実習:業種(音響設備)の日本語ニーズ調査と授業計画立案/生徒の目標とするビジネスについて面談による内容などの確認とインタビュー・ニーズリサーチシートの作成。	大東文化大学教授 ミックマーヒル カイラン	6名

10月15日 19:30～ 21:30	実習：業種（食品販売）の日本語ニーズ調査と授業計画立案／外国人経営者による食品販売の現場で、日本人客への対応の状況・課題などを生徒とともにインタビュー調査。授業計画を検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	6名
10月16日 14:00～ 16:00	実習：業種（職業紹介）の日本語ニーズ調査と授業計画立案／生徒の目標とするビジネスについて面談による内容などの確認とインタビュー・ニーズリサーチシートを作成。	特定非営利活動法人 多 言語教育研究所教員 守屋史朗	6名
10月19日 19:00～ 21:00	接客のトラブル・苦情の対応、日本人の文化的な価値観／苦情を言う日本人のお客さんへの対応のロールプレイと様々な謝り方を通じた文化の違いの学習。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	9名
10月20日 19:00～ 21:00	実習：業種（カフェ）の日本語ニーズ調査と授業計画立案／外国人経営者の店の現場にて、日本人客への対応の状況・課題などを生徒とともにインタビュー調査。授業計画を検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	6名

10月21日 19:00～ 21:00	実習：業種（音響設備）の日本語ニーズの調査と授業計画立案/日本人経営者の店の現場にて音響設備の問題点などを生徒とともにインタビュー調査。授業計画を検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	5名
10月23日 10:00～ 12:00	実習：業種（英会話教室）の日本語ニーズ調査と授業計画立案/語学教室の現場で語学教育の問題点などを生徒とともにインタビュー調査。授業計画を検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	6名
10月26日 19:00～ 21:00	謝ることと文化の違い、リスニング問題の作成/謝り方の違いと日本文化を整理。短いリスニング文を作成し、ブランク問題、成否回答問題の作成法と実習。	中央大学専任講師 谷口すみ子 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	10名
11月2日 19:00～ 21:00	丁寧語・敬語の教え方/リスニング問題作成による丁寧語・敬語の授業の学習。	Jコミュニケーション代表 高橋清乃 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	8名
11月9日 19:00～ 21:00	人脈ネットワークの作り方、質問をする時の表現/講話を聴く前に質問の仕方の学習、講話では日本人経営者の成功の要素、特に人脈作り	(株)茂木園代表取締役 茂木克美 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	9名

	と、必要な日本語について学習。		
11 月 13 日 13:00～15:00	実習：業種（教会）の日本語ニーズ調査と授業計画立案/教会の現場にて教会の状況、日本人との関係、必要な日本語などについてインタビュー調査。授業計画を検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	6 名
11 月 16 日 19:00～ 21:00	レッスンプランの作り方/実際のレッスンの録音テープで実態を観察・分析。必要な日本語の表現の導入法を学習。	中央大学専任講師 谷口すみ子 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	9 名
11 月 20 日 14:00～16:00	実習：業種（食品販売）の日本語ニーズ調査と授業計画立案/日本人経営者の食品販売の現場で、店の運営の状況などを生徒とともにインタビュー調査。授業計画を検討。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	6 名
11 月 23 日 19:00～ 21:00	人脈ネットワークの作り方、比喻を使った教育プロセスの説明/人脈ネットワークの具体的作り方と必要な概念、日本語表現を学習。日本語教育法として「足場」の概念の学習。	(株)茂木園代表取締役 茂木克美 大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	9 名

11月30日 19:00～ 21:00	受講生のレッスンプランについて受講者同士で評価/受講生のレッスンプランを受講者同士で評価し、同時に教授者から仕上げるための指摘。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	10名
12月7日 19:00～ 21:00	受講生の発表/受講生の発表及び教授者から受講生一人一人に授業計画案に対する評価表を渡した。	大東文化大学教授 ミックメーヒル カイラン	10名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート（アンケート用紙を添付）

前期講座のアンケートは記名式としたが、後期講座のアンケートはより率直な回答を得やすくするため無記名式とした。

イ) 前期講座(5月22日～7月24日)

受講生6人から回答を得られ、質問項目、回答及び項目毎の感想下記。

回答については記載のあったもののみ示す。

a) 研修内容の理解

大変わかりやすかった(2人)、わかりやすかった(3人)、ふつう(1人)

[感想] ・全てが新鮮でした。

・全員自ら考えを述べ、とても良い研修だと思いました。

b) 研修内容の実践

研修内容を活かした実践を考えている/実践している(4人)、その他(2人)

[感想] ・(その他)実践する機会がほとんどないけれど、あれば実践したい。

・(その他)現在の活動は様々なレベルの成人に日本語を教えているので、もう少し成人対象を多くしてもらえたらと思う。

・分かりやすい日本語をめざして、実践あるのみ。

・人それぞれの経験を活かした説明が良かったと思いました。

c) 次年度の継続

次年度も継続実施の必要を感じる(5人)、その他(1人)

[感想] ・(その他)分からない。

・継続する事が「力」となると思います。

・市町村役場の方にも受講していただくと良いと思います。

d) 講師

講師の人数・経験などは適当であった(6人)

[感想] ・個性豊かでした。

・どの方の話も参考になったので良かったと思いました。

e) 実習時間

適当であった(6人)

f) 講義時間

適当であった(6人)

g) ネットワーク…今後受講者のネットワークを作り地域での日本語ボランティア活動の実践の機会を得やすくしたいと考えています。そのようなネットワークへの参加について。

参加してみたい(4人)、その他(2人)

[感想] ・(その他)地元の日本語ボランティア協会としても現在講師の派遣で参加しておりますが、協会とのさらなる協力が出来ればと思います。

・(その他)勉強の必要性は感ずるが、活動を広げすぎないように、また、その活動そのものを深めたいと願っている。

・地域のために。

・自分のためだけではなく、他の人のためになると思うので参加してみたいと思います。

h) 後期講座の日時(水曜日、19時～21時)

適当である(2人)、別の曜日もしくは時間帯の方がよい(4人)

[感想] ・大学の授業等によって参加できるかまだ分からないです。

・土曜日の午前中の方が良い。

・土曜日のまま。

・土曜日午前10時～12時。

i) 本研修講座に関するご意見・ご感想、受講後の利活用、授業実践の様子など、自由にお書き下さい。

・ゲスト講師の授業は、1回2時間の講座ではなかなか理解しにくい講座もありました。同じゲスト講師で何回か継続しても良いのでは。

・当初、全体像が見えずにとまどいを感じたことあり。今後、より「楽しい授業」をめざして努力しようと思います。ありがとうございました。

・習得した技法等、日本語教室で実践に活用している。生徒に自ら考えることを提案し、実行している。

・様々な教え方などがありました。教えるというのは、自分がその事に対して、どれだけ知識があるかではなく、教えたい事をどう伝えるかが大切

だと思いました。

ロ) 後期講座(9月21日～12月7日)

受講生8人から回答を得られ、質問項目、回答及び項目毎の感想下記。

回答については記載のあったもののみ示す。

a) 研修内容の理解

大変わかりやすかった(5人)、わかりやすかった(3人)

〔感想〕・初めのうちは良く理解できなかった。

・一人ひとりの外国人生徒のレベルを考えた授業ができるようになったと思います。

b) 研修内容の実践

研修内容を活かした実践を考えている/実践している(6人)、その他(2人)

〔感想〕・(その他)機会があれば実践したい。

・レベルの違いを超えて役だった。

c) 次年度の継続

次年度も継続実施の必要を感じる(7人)、その他(1人)

〔感想〕・(その他)とても勉強になったが3ヶ月毎週というのはちょっと難しいです。

・自分自身の勉強になり是非続けて頂きたい。

・今回は外国人ビジネスに関する課題でしたが、次は何か形態を変えて実施してはどうか。

d) 講師

講師の人数・経験などは適当であった(7人)、不足であった(1人)

〔感想〕・ゲスト講師がもっと欲しかった。

・いろいろなことが学べて良かったです。

e) 実習時間

もっと必要と思う(3人)、適当であった(5人)

f) 講義時間

もっと必要と思う(3人)、適当であった(5人)

g) ネットワーク…今後受講者のネットワークを作り地域での日本語ボランティア活動の実践の機会を得やすくしたいと考えています。そのようなネットワークへの参加について。

参加してみたい(7人)、その他(1人)

〔感想〕・(その他)時間次第。

・伊勢崎だけでなく、群馬のネットワークを構築して行きたい。

h) 後期講座の日時(水曜日、19時～21時)

適当である(4人)、別の曜日もしくは時間帯の方がよい(3人)、無回答(1人)

[感想] ・火曜日に限らず。

- i) 本研修講座に関するご意見・ご感想、受講後の利活用、授業実践の様子など、自由にお書き下さい。

・生徒(外国人)へ日本語を教えるのは大変です。でも色々な指導方法を学べたと思う。
・将来海外で塾のようなものをやりたいと考えていますので、大変勉強になりました(夢)。
・「ビジネス地図」が実現できず残念でした。これから手づくりでも簡単なものでも地図を作って貰いたいと思います。
・大変楽しく研修させて頂きました。これからも学んだことを活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
・とても楽しい時間でした。ありがとうございました。

② 実施主体からの研修内容結果評価

イ) 学習者主体の教育法

受講者の中に日本語を教えているボランティア団体のメンバーや日本語教育研修420時間コースを終了してボランティアを行なっているグループがおられた。従来の日本語教育方法に対して今回の講座の研修は、フレイレの問題提供型教育法、学習センターによる教育法、ニーズ調査・分析など学習者主体の教育法であり、新鮮な気持ちで研修に取り組んで頂けた。学習者主体とすることで、様々なレベルの外国人生徒に個々に対応する教育を行なうことができることを大部分の受講者に理解して頂けたと思われる。

また、同じく学習者主体の視点から、地域の大多数を占めるブラジル、ペルーなどの日系人について、その移民の歴史、また日本に定住することでの課題、そして子どもの教育に抱える問題など、学習者の直面している課題を理解することでニーズ分析が可能となり、個々の日本語教育に反映できることも理解頂けた。

ロ) 対象とする外国人生徒—児童、成人

日本語教育の対象である外国人生徒を、前期は児童を、後期はビジネスに関わる成人を対象とした研修を行なった。

上述のボランティア団体及びボランティアグループをはじめ、多くの日本語ボランティア経験者は成人外国人を対象としていることがほとんどである。今回の研修で外国人児童を対象にした日本語教育方法を学ぶことにより、成人外国人に対する教育方法にも応用できることに気付いた人も多かった。これにより今後のボランティア活動の幅の広がりが期待できる。

また、現在大学の日本語教育科目を取っておられる学生もいたが、大学での教育

とは一味違う視点での研修であり、積極的に取り組んでいた。この学生は前期講座終了後、当法人で行なっている文部科学省委託事業「定住外国人の子どもの就学支援」(「虹の架け橋教室」)にて、実際に実践を行ない当法人の教員による評価も行なわれた(注:個人による実践ゆえ、本報告書の「実習」のカウントには含めていない)。

後期講座ではビジネスオーナー、組織のリーダー、もしくはそれらを目指す成人外国人を日本語教育の対象とした研修を行なった。具体的には、もっと日本人に来てもらうための日本語を学びたい教会の牧師、また、現在工場勤務であるが定年後は食品販売店を開きたい外国人などの、地域の身近な外国人である。ビジネスに関わる外国人は、何のために日本語を学びたいかという目的意識が比較的明確であり、日本語教育を行なう側にとってもその目的にマッチし、かつどういう成果が得られるかを明示することが求められる。そのために、個々人の日本語学習に対するニーズ調査・分析とそれに基づく授業計画作成が重要であり、本研修ではそれぞれが目標とする業種の現場ないしそれに類する現場を、受講者が学習者と一緒に訪問しニーズ調査・分析を行なった(注:本報告書でカウントしている「実習」はこれらである)。この手法も日本語ボランティア経験者には新鮮なものであり、それに基づく授業計画作成にも熱心に取り組んで頂けた。

なお、併設した「外国人ビジネスオーナーと組織のリーダーのための特別日本語教室」に参加した外国人(国籍:ブラジル、ペルー、フィリピン)に対し、研修した内容をその都度即適用できたことも習得に有効であった。

ハ) ゲスト講師

ゲスト講師には、上述の研修内容の実を上げるため、児童に対する日本語教育を専門とする大学講師、また、ビジネス経験のバックグラウンドを持った講師などに来て頂き、臨場感のある研修とすることができ好評であった。講師には限られた時間の中でコンパクトにまとめて頂き、受講者にとっては知識習得に効率的であった反面、同一講師による複数回の継続講習を求める声も頂いた。

また、講師の多くは地元で活躍しておられる方々であり、本研修を基にした日本語教育活動の地域への展開についても協力・支援を頂ける。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

受講者ネットワークの活用…

前期、後期の研修後の受講者に対するアンケート結果では、今後の受講者の地域での日本語ボランティア活動の実践の機会を得やすくするネットワークへの参加意思のある人が、回答 14 件中 13 件あった。

受講者全員からメールアドレスの提示を受けており、今後当法人で行なう外国人に対する日本語教育活動などの機会への参加を呼びかける。

主な具体的計画は下記。

- a) 地域の公立小学校の放課後における多言語・多文化対応学童クラブ(平成 23 年度実施検討中)。
- b) 文部科学省委託事業「定住外国人の子どもの就学支援」(「虹の架け橋教室」)における特定児童への個別補強レッスン(同委託事業には平成 23 年度も申請予定)

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今後の検討予定下記。

- イ)伊勢崎日本語ボランティア協会(研修受講者含む)からの日本語講師派遣
- ロ)個別日本語ボランティアグループ(研修受講者含む)からの日本語講師派遣
- ハ)NPO 法人 Jコミュニケーション(地域の日本語教室事業を実施)との連携
- ニ)地域の商工会議所との連携
- ホ)地域の国際交流協会との連携

② 研修後の人材活用

- イ)前期講座の受講者の 1 名が、当法人が行なっている文部科学省委託事業「定住外国人の子どもの就学支援」(「虹の架け橋教室」)の日本語授業で指導を実施中(平成 22 年 7 月開始)。
- ロ)前期講座の受講者 1 名(大学生)が、上記「虹の架け橋教室」にて 9 月に日本語事業の実践を行なった。
- ハ)今後の検討予定は下記。
伊勢崎市役所国際課、国際交流協会、伊勢崎市教育委員会等からのニーズの情報把握を行ない、上述の受講者ネットワーク活用による人材活用機会の提供。

(12) 今後の課題

① 受講者募集の工夫…

受講者募集に関し二つの課題が見えた。

一つは、いかに周知し多くの応募者を得るかである。今回合計 19 名の受講者を得たが、募集に効果的であったのは各団体及びグループ、大学のキーパーソンへの直接面談での説明とチラシ等による周知依頼であった。課題としては、なんらかの団体に属していないフリーの日本語ボランティアへの周知と応募者獲得がある。

もう一点は、受講者の受講継続の確保である。初回から回を重ね暫くすると継続受講者はほぼ定着したメンバーになる。定着しなかったメンバーへのヒアリング等によりその理由を把握し、今後の定着向上につなげる必要がある。

② ゲスト講師の活用…

日本語ボランティア活動を既に実施している受講者に好評であったことのひとつに、特定分野での専門的なゲスト講師による講義がある。絞り込んだテーマによる 3～5 回程度の同一講師による講座へのニーズが感じられた。地域の他事業との連携での今後の企画検討に反映させたい。

以上

日本語教育研修講座

対象：外国人児童の日本語指導ボランティア

外国人のための日本語教育を見つめ直そう！

『外国人学習者レベルさまざま＊上手な学習法』

**文化庁委託事業 ボランティア
を対象とした実践的研修
参加無料！**

前期日程

2010年5月22日～ 7月14日

後期日程

9月11日、25日～ 12月4日

土曜日午前 10時～12時

学習者の自尊心や日本語習得の動機を高める方法、またレベル・年齢・母国語など「さまざま」な学習者たちの要望に応えた教育法や教室管理法が必須となっている。

本講座では、学習者の背景である出稼ぎ外国人の社会的な立場と、その状況の理解を深め、学習者の多様性に配慮し、個々人に合った教育方法を勘案しながら実践する。

例えば：

- 学習センターの用意・利用法
- 調べ学習の実施方法
- 問題提供型教育法など
- 当法人が受託している文部科学省の事業「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室）」の生徒を相手に実習・適用を行なう。



インストラクター：
大東文化大学教授ミックメー
ヒル・カイラン
ゲスト講師：中央大学専任講
師 谷口すみこ、群馬大学
講師 園田智子、その他

★お申込み・お問い合わせ★

5月22日(土)までに①お名前②所属③連絡
先をご連絡ください。(FAXでも可)

NPO法人多言語教育研究所

群馬県伊勢崎市富塚町268-25
インターナショナル・コミュニティ・スクール(ICS)

電話 0270 (65) 8795

FAX 0270(65)8795

Email: icsnet_hp@yahoo.co.jp

